



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 376

November 2022

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

家次 恒名誉会長「旭日重光章」受章

2022年度秋の叙勲にて神戸日独協会名誉会長家次 恒氏(シスメックス株式会社代表取締役会長兼社長CEO)が「旭日重光章」を受章されました。

家次 恒名誉会長は、2007年5月から2015年5月までの長きにわたりNPO法人神戸日独協会会長として日独の友好親善交流のためにご尽力をいただきました。

家次名誉会長は神戸を代表するグローバル企業であるシスメックスグループの代表として、神戸商工会議所会頭を努められ産業界のリーダーとして積極的なご活動をされています。

家次名誉会長のご受章を神戸日独協会会員一同心よりお祝い申し上げますとともに、ますますのご健康とご活躍をお祈りいたします。

Verleihung des Ordens *Kyokujitujyukôshô* (Orden der Aufgehenden Sonne) an Ehrenvorsitzenden *Hisashi Ietsugu*

Hisashi Ietsugu, Ehrenvorsitzender der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kobe (Präsident und CEO der Sysmex Corporation), wurde bei den Ordensverleihungen im Herbst 2022 mit dem "Orden der Aufgehenden Sonne" ausgezeichnet.

Ehrenvorsitzender Ietsugu hat als Präsident der NPO Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kobe (Mai 2007 bis Mai 2015) einen großen Beitrag zum freundschaftlichen Austausch zwischen Japan und Deutschland geleistet. Als Präsident und CEO der Sysmex-Corporation leitet er ein globales Unternehmen, das Kobe in der Welt repräsentiert, und ist als Vorsitzender der hiesigen Industrie- und Handelsvertretung eine führende Persönlichkeit in der Branche.

Die Mitglieder der Japanisch-Deutschen Gesellschaft Kobe gratulieren von Herzen für die Verleihung des Ordens und wünschen Ehrenvorsitzenden Ietsugu weiterhin gute Gesundheit und viel Erfolg bei allen seinen Unternehmungen.

ドイツ総領事講演会とクリスマス祝賀会のご案内

前号会報にてお知らせしましたように、今年は恒例のクリスマス祝賀会を開催します。祝賀会の前にドイツ総領事の講演会を行い、ロシアのウクライナ侵攻後のドイツにおけるエネルギー危機、諸物価の高騰とインフレ傾向の現状と政策について、時宜にかなった講演をしていただきます。公開講演会ですので無料です。祝賀会では例年のようにクリスマスソングを参加者で合唱をして、お楽しみ抽選会も行います。美味しいお食事や会員との懇談を楽しみ、クリスマスを祝賀しましょう！本来は講演会と祝賀会共に参加していただきたいのですが、ご都合で一方だけのご参加もできます。まだ定員に達していませんので、参加ご希望の方は是非お申込みください。多くの方にご参加をいただき、楽しい懇談の一夜を過ごしていただきたく、ご案内いたします。ご参加をお待ちしています。

- 日 時： 2022年12月4日(日)
講演会 16:00～17:00 (受付15:45)
祝賀会 17:30～20:00 (受付17:15)
- 会 場： 神戸倶楽部(Kobe Club)
(TEL. 078-241-2588、神戸市中央区北野町4-15-1)
- 会 費： 講演会 無料
祝賀会 会員(及び同伴者) 7000円 一般7500円
(着席コース料理、乾杯以外の飲物は各自払い)
- 定 員： 60名 定員になり次第締め切らせて頂きます。
- 申 込： 講演会・祝賀会ともに**事前申込制**ですので、
神戸日独協会へメール(info@jdg-kobe.org)、または電話・FAX(078-230-8150)にて、
祝賀会は11月30日(水)までに、講演会は12月2日(金)までにお申し込みください。

2023年関西地区日独協会合同新年会

2023年の関西地区日独協会の合同新年会を、1月7日(土)に開催します。合同新年会は、各日独協会の会員が新春に集まり新年を祝賀し、相互の懇親を深めるために毎年年初頭に開かれているものです。会員の皆様にはこの合同新年会に是非ともご参加いただき、新しき年のドイツとの交流についてご歓談していただきたく、ご案内いたします。

- 日 時： 2023年1月7日(土) 18:00～20:00
- 場 所： アサヒスーパードライ梅田
ニッセイ同和損保フェニックスタワーB1 TEL06-6311-2829
JR大阪駅徒歩10分、御堂筋線梅田駅徒歩10分
地下鉄谷町線東梅田駅、JR東西線北新地駅徒歩5分
- 会 費： 当日 各自実費清算。
- 申 込： 参加ご希望の方は、1月6日(金)までに、事務室にご連絡ください。
お早めにお申し込みください(事務室閉室中は FAX、メールにて)。

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで (多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第3水曜までに事務局へ)

イエナ便り —11月9日—

会員 竹中ららら(イエナ在住)

今年のドイツは11月でも暖かく、天気予報ではよく「Spätherbstwetter(晩秋の天気)を楽しみましょう」という表現を耳にします。森のそばでは Walnuss(クルミ)がたくさん落ちており、ハンマーで割って食べるととても香ばしい味がします。

さて11月9日はドイツの歴史の中にとって運命的な日です。1838年の3月革命(ドイツ統一と自由民主主義的憲法作成を求めた革命)、1918年の11月革命(第一次世界大戦の戦場での敗北と経済の麻痺の結果、革命が起こり帝政が崩壊)、1932年のクーデター(保守派が社会民主党政政府を一掃し、ナチス政権の先駆者となる)、1938年の水晶の夜(ドイツ全土でのユダヤ人の迫害)、1989年のベルリン壁の崩壊。

この歴史的な日の夕方、イエナではナチス政権の犠牲者を追悼する為の集いがあり、市内の53か所で一斉に短いコンサートやパフォーマンスが行われました。合唱団、オーケストラ、ジャズ、ヒップホップ、学校の演劇クラブなどが、通行人とともに犠牲者をしのび、人権・互いの尊重・寛容といったメッセージを音楽と共に発信しました。この集いは Klang der Stolpersteine と呼ばれ、2017年から行われています。Stolpersteine とは、ナチス政権により死に追いやられた人々の名前を刻んだ石で、地面に埋め込まれています。この日数百人のイエナ市が53か所の Stolpersteine のもとで音楽を奏で、その後イエナ西駅に集まりました。この駅から、ユダヤ人、ロマ、シンティ(ドイツ語圏に住む東南ヨーロッパ系のジプシー)が強制収容所に輸送されたのです。

イエナの上級市長の Tomas Nitsche 氏は、Rassismus(人種差別主義)、Antisemitismus(反ユダヤ主義)、Fremdenfeindlichkeit(外国人排斥主義)は現在でもまだ解決されていないテーマであり、これらを阻止する運動が弱まらないようにしなければならないと市民に訴えかけました。またこの集いを主催する市民(ユダヤ民族のためのワーキンググループ、大学教授、400人を超えるアーティスト、100人以上のボランティア)たちは、過去に起こった悲惨な出来事を防ぐために最も平和的な方法は、歌、音楽、芸術であると強調しました。

この日の様子は、イエナの地元放送局の Jena TVにて「Erinnerung: Jena gedachte der Opfer der Reichspogromnacht 1938」というタイトルで放送がありました。日本からは残念ながら視聴できません(ドイツではホームページを訪問できます)が、ここにその情報(ビデオと説明文)があるということをお記しておきます。また市民のイニシアティブによる活動「Klang der Stolpersteine」についてのホームページでは、その趣旨やこれまでの活動履歴についての情報を得ることができます。

イエナの上級市長が述べたような人種や国籍に対する差別は、個人レベルかつ集団レベルで発

生する可能性があります。それを阻止するためには個人の意識的活動(情報収集や意見交換)はもちろん、この11月9日の集いや Stolpersteine といったはっきりと目に見えるかたちで広く人々に訴えかけるという方法が継続して行われなければなりません。ちょうど私は今年の12月頃に日本の高校生に対して、世界史の授業の一環として「ドイツにおけるナチス政権についての歴史教育」というテーマでオンラインでプレゼンテーションをします。若い世代の人たちに、自分自身がドイツで発見したり経験した「歴史」やその現在との繋がりについて伝えたいと思います。

ドイツ語談話室

第216回ドイツ語談話室

日時 : 2022年10月15日(土)14:00~16:00

場所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : 第3次世界大戦と日本の立場

今回の司会は松浦庸夫氏が担当され、目下のロシアのウクライナに対する侵略戦争が長引き、第3次世界大戦に発展しそうな事から、急遽この問題を今日のテーマとする事を提案された。第1次世界大戦(1914-1918)の後21年間世界大戦はなく、第2次世界大戦(1939-1945)の後77年間世界大戦はなかったが、今我々は第3次世界大戦への進展に脅かされている。司会者が小学生の頃は第2次世界大戦中で、軍部は風船爆弾をジェット気流に乗せてアメリカ大陸に落下させる計画を作り、小学生たちまで動員して風船作りを急がせた。当時日本政府の考えは、日本の生命線である満州を確保すること、同盟国ドイツの支援を受けること、敵国アメリカを攻撃すること、であったようだ。翻って今は世界の状況が緊迫しており、日本も、ロシア、中国、北朝鮮から攻撃されることを想定しなければならないが、日本はどう対応すべきか真剣に考えることが必要だ。こうした状況下、日本の取るべき道はどうか、皆さんの意見を聞きたい。

以下に、参加者の発言の一部を紹介する。

- 司会者の言われるように、第3次世界大戦に突入する可能性を強く感じる。日本の取るべき対応として、国連軍を、実力を備えた世界のポリスとして構成し、国連軍が国連憲章に違反している国を取り締まれるようにする。日本はこうした国連軍を支援する。
- 核兵器に関して、日本には非核3原則がある。作らず、持たず、持ち込ませず。これは大切な原則なので、同盟国アメリカとの協調が必要。
- 日本は独自の軍隊を持って行動すべきではないと思う。防衛は、同盟国との協調が良い。
- 日本は、過去に行った間違った戦争の経験から、良く学ぶべきだ。
- 目下の危機的な状況下では、一人一人の健全な思考が大切である。周りの国の恐喝に対して、極端な思考に走るべきではない。
- ロシアをはじめ、独裁的な考えを持つリーダーがいる国々、独裁国家は、まだ多く存在する。これらの国々と、どう付き合っていくべきかをよく考える必要がある。
- 日本政府は、これまで、軍事費をGDPの1%以内とするルールを守ってきたが、ここに来て

2%に引き上げることにしている。他の国々も軍事費の増強傾向にあるが、注意が必要だ。

- 日本人はかつて、先生の言う事、政府の言う事、軍部の言う事、を単純に信じてしまう国民、お上の言う事に従う国民であった。現在の日本の若者は、自分自身の考え方、信念を持った若者に育っているのだろうか。是非そうあってほしいものである。
- 人々は、正しい情報を入手できるべきだが、そうなっているだろうか。そうでない国々が多くあるようだ。政府や軍部による情報統制を見聞きする。

今後のドイツ語談話室の予定

第217回 2022年12月17日(土)14~16:00 テーマ : 人生を変えた本や事柄

第218回 2022年12月17日(土)14~16:00 テーマ : お気に入りの食べ物

Protokoll der 216. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 15. Oktober, 2022, 14 bis 16 Uhr.

Thema: Ein dritter Weltkrieg und der Standpunkt Japans

Dieses Mal hatte Herr Tsuneo Matsuura die Gesprächsleitung und machte zuerst den Vorschlag, das Thema zu ändern. Der Russische Angriffskrieg gegen die Ukraine könnte den Ausbruch eines Dritten Weltkrieges verursachen. Wir haben beschlossen, darüber zu sprechen, mit welchen Situationen sich Japan in dieser Lage konfrontiert sieht. Der Zweite Weltkrieg (1939-1945) folgte 21 Jahre nach dem Ersten (1914-1918). Seit Ende des Zweiten Weltkriegs sind 77 Jahre vergangen. Sehen wir uns heute wieder vor der Gefahr eines Weltkriegs?

Der heutige Gesprächsleiter war während des Zweiten Weltkriegs Grundschüler und war somit auch zu einem Teil von militärischen Maßnahmen betroffen. Das japanische Militär verfolgte den Plan, mit dem Westwind Luftballonbomben in die USA zu schicken und dort explodieren zu lassen. Zur Herstellung dieser Bomben wurden auch Grundschüler herangezogen. Die japanische Regierung wollte damals die Annexion der Mandschurei festigen, suchte um Unterstützung in der Allianz mit Deutschland und verstärkte die Angriffe gegen die USA.

Betrachtet man unsere heutige Welt genauer, so zeigt sich eine größere Anzahl gespannter Verhältnisse. In Japan können mögliche Angriffe aus Russland, China oder Nordkorea nicht ausgeschlossen werden. Wie in solch einer Situation reagiert werden könnte, ist etwas, das ernsthaft diskutiert werden sollte. Der Gesprächsleiter fragte die Teilnehmerinnen und Teilnehmer nach deren Meinung.

Hier einige der Wortmeldungen:

-Die Möglichkeit eines Dritten Weltkriegs verstärkt sich. Japan sollte sich vermehrt bei den Streitkräften der Vereinten Nationen einsetzen, damit die Kontrolle der Länder, die gegen die Charta der Vereinten Nationen verstoßen, verstärkt werden kann. Japan soll diese "Weltpolizei" unterstützen.

-Japan hat drei Grundsätze in Bezug auf Atomwaffen: „Keine Herstellung“, „Kein Besitz“ und „Keine Erlaubnis, Atomwaffen auf japanisches Gebiet zu bringen“. Diese wichtigen Grundlängen müssen bewahrt werden, auch in der Zusammenarbeit mit den Verbündeten.

-Die Selbstverteidigungstruppen Japans sollen mit den Verbündeten zusammenarbeiten und nicht selbst militärisch tätig sein.

-Japan muss aus den vielen falschen Taten der vergangenen Kriege lernen.

-In Zeiten der Bedrohung von außen ist der gesunde Menschenverstand sehr wichtig. Man soll sich nicht in extreme Anschauungen reißen lassen.

-Wie in Russland gibt es noch in vielen anderen Ländern diktatorische Regierungen. Wir müssen wohl bedenken, wie man mit diesen Ländern umzugehen hat.

-Die japanische Regierung hat das Verteidigungsbudget bisher auf unter 1% des Bruttoinlandsprodukts beschränkt, will nun diese Beschränkung aber auf das Doppelte erhöhen. In anderen Ländern sieht man ähnliche Tendenzen. Diese darf man nicht aus den Augen verlieren.

-Japan war ein Volk, das einfach glaubte, was Lehrer, Vorgesetzte, die Regierung und das Militär sagten, ein Volk, das nur folgte, ohne nachzudenken. Haben heutige junge Japanerinnen und Japaner eigene Meinungen und Überzeugungen? Wir wünschen sehr, dass diese Frage bejaht werden kann.

-Es muss möglich sein, stets authentische Information bekommen. Leider ist das in vielen Ländern nicht möglich, da Regierungen und Armeen noch immer Informationen kontrollieren.

Nächste Treffen:

Samstag, 19. November 2022, 14 bis 16 Uhr. Thema: Ein Buch oder sonst eine Sache, die mein Leben verändert hat.

Samstag, 17. Dezember 2022, 14 bis 16 Uhr. Thema: Meine Liebesspeise.

Stammtisch mit Zoom

ドイツ・アメリカでの27年: 寺畑 建雄さん

今回、お話しいただくのは寺畑 建雄さんで、兵庫県庁に37年間在籍のうち、1969年～76年をハンブルクのJETROで勤務、その後1977年～90年までニューヨークのJETROで勤務、1990年～98年はワシントン州兵庫文化交流センター所長として、通算27年間海外勤務という経歴をお持ちです。

1969年にハンブルクに赴任された当時は、近くの公園でドイツ人が上半身裸で日光浴をしていたり、ドイツ人が連邦休暇法で保障された24日間の休暇をしっかりとったりすることに、カルチャーショックを受けたそうです。が、北ドイツの冬の厳しさを知れば、健康維持のための日光浴も、保養

のための休暇も納得できます。寺畑さんは、風土から来る「健康第一」の考え方に基づく、「安全」「安心」そして「天然のもの」「自然環境への強いこだわり」がドイツ人理解の第一の鍵だと言います。2011年3月11日の東日本大震災による福島原子力発電所の放射能漏れの事故の後、ドイツがいち早く、原発を廃止し、風力、太陽光等の再生可能エネルギーに転換することを決めたのもこの流れです。

ドイツ人理解の第二の鍵が「効率性」・「合理性」の追求です。柔軟な勤務時間、フレックスタイムは、実は55年前にドイツでメッサーシュミット社が4000人の社員を対象に始めたそうです。効率よく働くことで、ドイツ人は生活と仕事の調和(ワークライフバランス)を図ります。

ドイツ人理解の第三の鍵として、寺畑さんが挙げるのは「豊かな心」です。動物園、美術館、博物館等公共施設にはファミリープライス(夫婦と子供三人でも大人二人分よりお得)があって、子供たちが豊かな心をはぐくむ手助けをしています。

一方アメリカはというと、アメリカ社会は人種のるつぼ。共通言語の英語ですら文盲率3割、全ての局面で「自己主張」が求められます。ドイツ生まれアメリカ育ちの寺畑さんのお嬢さんが、幼稚園で最初に受けた授業がショウエンテル(Show and Tell)。自分の持ち物を見せ、如何に友達を羨ましがらせるかを競わせるゲームだったそうです。またアメリカでのビジネスはアングロサクソンの考え、「相互不信」の上に成り立つ「契約社会」、あらゆる場面を想定して事細かに取り決めておかねばなりません。

アメリカ社会理解の二番目のキーワードが「競争は善」という行動原理です。競争をするためには、その大前提として「フェア」であることが求められます。「フェア」と並んで「チャレンジ」もアメリカ人がよく口にする言葉で、それは同時に「やり直しの利く社会」を意味しています。

そして三番目のキーワードが「活発なボランティア活動」です。開拓者の国アメリカはコミュニティのために労力やお金を出し合うシステムが出来上がっていて、公共施設もボランティアなしには成り立ちません。経営者の資質として、自由時間の20%を公共のために使うという暗黙に了解があり、忙しい人ほどボランティアに熱心だそうです。

寺畑さんの豊かな経験で、話は尽きませんでした。

(担当理事: 押尾 愛子)

☆寺畑さんからご著書『グローバル時代を生きる—ドイツの知恵・アメリカの挑戦』(2010年(株)兵庫ジャーナル社)を15冊寄贈いただきました。ご希望の方はお申し出ください。

(前号にて掲載できずに、本号での掲載になりましたこととお詫びいたします)

ドイツあれこれ: 平木ひろみさん

昨年の8月、Stammtisch mit Zoom の第1回目に島多 峰史さんに Düsseldorf の日本人学校での経験についてお話しいただいた際に、平木ひろみさんはZoomで参加されていて、Volkshochschule に行っていたと言われ、その時からずっと Volkshochschule の話をしていただきたいと思っていました。

1988年の10月、ご主人が仕事の関係で Frankfurt に赴任することになり、半年ほど遅れ平木ひろみさんもドイツに引っ越ししました。大学卒業前にパリやジュネーブに旅行したことはあるもの

のドイツもドイツ語も初めて。そこで、引っ越し前にドイツ語を少し勉強しましたが、ドイツ語の響きは気に入り、ドイツでも勉強したいと思っていた矢先、Volkshochschule という市民のための生涯学習機関で外国人向けのドイツ語講座もあると知り、早速、初級を申し込んで、月～金の午前中に10週間通うことになりました。クラスは15人くらいで国籍は様々でしたが、もう一人同年代の日本人女性がいて、ドイツ語の授業の後、二人で Frankfurt の繁華街 Zeil を、アイスクリームを食べながらぶらぶらしたり。その後も次のコースに行き、2年目になると、週2回の中級コースに参加。コースの最後に受講者がそれぞれ食べ物を持ち寄って行う立食パーティがあり、巻寿司を作って持参したところ大好評で、巻寿司は平木さんのパーティメニューの定番になったそうです。

パーティといえば、ドイツの誕生日は日本と違って、誕生日を迎える人の家族や友達が準備するのではなく、誕生日を迎える本人がパーティを主催します。誕生日の中でも20歳、30歳という節目の誕生日は特に盛大に祝う習慣があり、平木さんは30歳の誕生日の時には、ドイツ語コースの仲間など8人ほどを自宅に招いて立食パーティをされたとか。主役の自分が台所にこもるのはよくないので、前日からおでんを準備したり、ケーキを焼いたり、当日は着物まで着たり、大忙し。Frankfurt では近所の人とも仲良くなり、とても楽しかったそうですが、1992年の12月に夫の転勤に伴い、Hamburg に引っ越し。Frankfurt では市の中心部から電車で30分ほどのアパートに住み、家の近くで乗馬用の馬や、うさぎが見られるのに感激しましたが、Hamburg では、中心部からバスで20分ほどのアパートの台所からリスが見えるのにまた感激。ただ、そのアパートでは、洗濯機の排水ができなかったり、台所で水が溢れ出したり、電話の設置に1ヶ月半もかかったりと結構トラブル続きで、その都度、何らかの対処をしなければならない状況に追い込まれ、もともと平木さんは引っ込み思案だったそうですが、だんだん鍛えられたとのこと。1995年1月に帰国、今となっては懐かしい思い出です。

11月も半ばを過ぎたこの時期、ドイツではクリスマスツリー用の本物の木が山積みで売られ、Frankfurt の Volkshochschule のフラワーアレンジメントコースに通っていた時は、Advent-Kranz を作ったこともあるそうです。

Volkshochschule の講座は住民登録をしている方が対象で、残念ですが、短期滞在での語学学習はできないようです。
(担当理事:押尾 愛子)

12月の Stammtisch mit Zoom は休会とします

1月の Stammtisch mit Zoom については、会報次号にてお知らせします。

Stammtisch mit Wein

11月の Stammtisch mit Wein

日 時： 2022年12月17日(土)17:30～19:30

場 所： 神戸日独協会会議室

話 題： 私のクリスマスの思い出

出席いただける方は、事務局へ電話・メールにてご連絡ください。当日参加も可。

12月の月例懇談会開催のお知らせ

月例会は11月より「月例懇談会」として開催しています。この会は協会と会員間の交流のための懇談会です。是非とも参加し、協会の運営や企画などにご意見をください。

日時：2022年12月17日(土)16:10～17:15

場所：神戸日独協会会議室

話題：協会事務所の移転と移転後の事務所の形態について。

大事なテーマですので是非ともご意見をお願いします。

ご出席いただける方は、事務室へ電話・メールにてご連絡ください。当日参加も可。

事務室からのお知らせ

新会員紹介(敬称略)

個人準会員 仲野^{ひさよし}徹喜 学生会員 早川りさ

事務室開室の変更

4月より事務室の開室時間を変更しました：平日14:00～17:00

会報印刷・発送ボランティア募集

9月より会報の印刷・発行日を毎月第4月曜日に変更しています。掲載記事は毎月第3水曜日までをお願いします。

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。印刷は会長と会員の二名で行っています。是非ともお手伝いをお願いします。9月より会報の印刷と発行の日が変更になりました。

次回の印刷と発送は年末を考慮し一週間早めて12月19日(月)を予定しています。お手伝いいただける方は事前に事務室へご連絡ください(TEL 078-230-8150)。

印刷：兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送：神戸日独協会にて、12:30～

これからの神戸日独協会の催し

日 時	催 し	会 場	申込〆切 など
12月 4日(日) 16:00~17:00	ドイツ総領事の時局講演会	神戸倶楽部	12月2日(金)
12月 4日(日) 17:30~20:00	クリスマス祝賀会	神戸倶楽部	11月30日(水)
12月17日(土) 14:00~16:00	ドイツ語談話室	神戸日独協会会議室	当日参加可
12月17日(土) 16:10~17:15	月例懇談会	神戸日独協会会議室	当日参加可
12月17日(土) 17:30~19:30	Stammtisch mit Wein	神戸日独協会会議室	当日参加可
1月7日(土) 17:30~19:30	2023年関西地区日独協会 合同新年会	アサヒスーパードライ 梅田	1月6日(金)